

TOPICS OF  
FILM AND  
NEW MEDIA

2010.08-2011.01

# 映旬



オープンシアター 2010  
3専攻そろっての初の上映イベント

1



日韓プロデューサー・ワークショップ  
映画専攻

2



3

電通コンテンツ産業寄附講座  
『ノルウェイの森』の世界観  
メディア映像専攻

1

## オープンシアター 2010

九月十六日から二十日まで、横浜キャンパス馬車道校舎において、大学院映像研究科3専攻による「オープンシアター 2010」が開催された。

横浜市との共催で文化芸術創造都市づくりの推進事業に位置づけられる本イベントは、例年、映画専攻単独で開催されてきたが、今回より3専攻そろっての初の上映イベントとして開催することとなった。会場では、映画専攻及びメディア映像専攻から、これまでの作品群からのセレクトプログラムが、アニメーション専攻からは第一期生修了作品および第二期生の一年次作品が上映された。また、上映にあわせ、映像研究科教員と修了生によるトークイベントも開催された。

2

## 日韓プロデューサー・ワークショップ

◎映画専攻

八月三日から六日まで、箱根の強羅静雲荘(文部科学省共済組合宿泊所)にて、韓国映画アカデミー(KAFA)と映画専攻のプロデューサー・コース学生らによる「日韓プロデューサー・ワークショップ」が合宿形式で行われた。

平成十九年より始まったこのワークショップは、今後増大が見込まれる映画の国際共同制作に関する実践的な教育を行うこと、日本映画の



4

## 第13回広島国際アニメーション フェスティバル

アニメーション専攻

## 藝大アーツ イン 東京丸の内 「藝大アニメーション・音・ステージ」

アニメーション専攻

5



将来にとって重要となるであろう日韓共同制作の人脈の形成を図ることを主たる目的としており、日本と韓国の含宿地で交互に開催している。四回目となるワークショップでは、集中講義、日韓合作短編の企画コンペティション、実作の素材を用いた編纂のワークショップなどが行われ、参加した学生たちにとって見識と交流をより一層深める機会となった。

3

## 電通コンテンツ産業寄附講座 『ノルウェイの森』の世界観

◎メディア映像専攻

港区の電通本社ビル内電通ホールにて十一月二十九日、電通コンテンツ産業寄附講座「『ノルウェイの森』の世界観」が開催された。

この寄附講座は、五年前から協定を結んだ電通と大学院映像研究科の産学連携事業のひとつで、電通「Designトーク」との共同企画シリーズに位置づけられるものである。

本講座は、十二月十一日に公開する『ノルウェイの森』の特別試写と、この映画の監督であるトラン・アン・ユン氏をゲストに迎えて、桂英史教授とのトークセッションが行われた。会場からの質問も交えて、監督本人から直接お話を伺える貴重な機会となった。

4

## 第十三回広島国際 アニメーションフェスティバル

◎アニメーション専攻

八月七日から十一日まで、広島県広島市のア

ステールプラザにおいて、第十三回広島国際アニメーションフェスティバルが開催され、アニメーション専攻第一期生の修了作品十一本と第二期生が一年次に制作した作品十一本が出品され、うち三本がコンペティションに入選し、三本が優秀作品として上映された。

会場内のエデュケーション・フィルム・マーケットでは、アニメーション専攻のブース出展を行うとともに、学生セミナーとして、山村浩二教授による講演「学校でアニメーションを学ぶこととは」プロダクションとしての教育機関」を開催し、好評を博した。

5

## 藝大アーツ イン 東京丸の内 「藝大アニメーション・音・ステージ」

十月二十六日、千代田区の丸ビルで開催された「藝大アーツ イン 東京丸の内」にて、アニメーション専攻による「藝大アニメーション・音・ステージ」が実施された。

舞台上で生の音楽やセリフを上演しながら、アニメーションを見ながら、ふだんとは異なるアニメーションの新しい楽しみ方を実現したこのステージでは、ウィンザー・マッケイの「恐竜ガーター」をはじめ、当専攻修了生とデザイン専攻修了生の作品を含む計五作品を上演。ピアノや打楽器の演奏のほか、尺八、三味線や長唄といった邦楽の演奏との組み合わせなど、アニメーションと音楽のユニークなコラボレーションが繰り広げられ観客を魅了した。

TOPICS OF  
FINE ARTS

2010.08-2011.01

# 美旬



「こよみのよぶね」



路上でのワークショップ



「隅田川 Art Bridge展」

GTS (藝大・台東・墨田) 観光アートプロジェクト

1





「Memorial Rebirth」



GTSのロゴ



「東京スカイツリー®を描く絵画展」



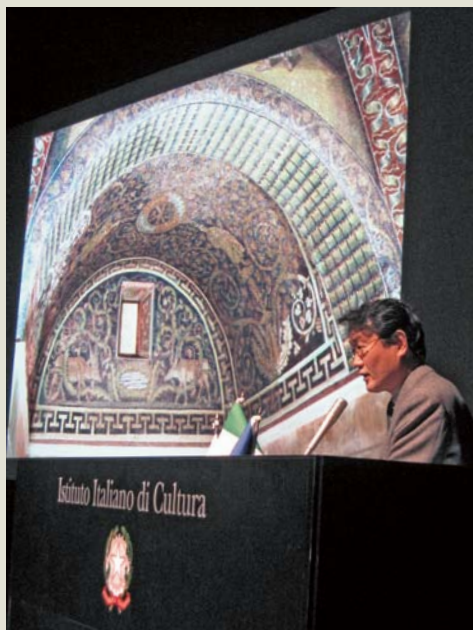
「マケット・プランニング展」

# 1

## GTS（藝大・台東・墨田） 観光アートプロジェクト

本学と台東区、墨田区の共催による地域連携事業「GTS観光アートプロジェクト」が、十月から十一月にかけて隅田川を挟み浅草の東本願寺から東京スカイツリー®を結ぶ地域を舞台に開催された。このプロジェクトは国際アートプロジェクトとアート環境プロジェクトの二つの事業を軸として構成され、国際アートプロジェクトでは「隅田川 Art Bridge2010」として、前記の地域に展覧会場を点在させ、本学の専攻分野を超えた複合チームにより、地域住民の参加によるワークショップや外国の協定大学および関連芸術機関と連携した展覧会など、さまざまな企画内容で実施された。

また、アート環境プロジェクトでは東京スカイツリーのビューポイントに設置する環境アート作品の制作に先立ち、模型による「マケット・プランニング展」が開催された。そのほかに、小中学生を対象としたワークショップと区民から募集した作品による「東京スカイツリーを描く絵画展」および東本願寺などを会場として四つのコンサートなどが実施された。



## モザイクの真実 ―世界遺産ガッラ・プラチディア廟モザイクの保存と修復―

右：レプリカによるモザイクの公開制作 左上：シンポジウム 左下：亀裂の入ったモザイクのディテール修復前（左）と修復後

2

## モザイクの真実

### ―世界遺産ガッラ・プラチディア廟 モザイクの保存と修復―

十一月三日から二十日まで、イタリア文化会館において、世界遺産ガッラ・プラチディア廟モザイク壁画の現状調査と修復事業の研究成果を展覧会とシンポジウムで発表した。

本研究は、本学壁画研究室とラヴェンナ建築文化財景観局・ラヴェンナモザイク修復専門学校が共同で、二〇〇五年から二〇一〇年の六年間にわたり主に文部科学省科学研究費補助金を受けて行ったもので、保存修復技術の研究とともに現地における詳細な調査の結果、多くの新しい発見があり、ローマ末期のモザイク研究において貴重なデータを得ることができた。

2

3

## 東京藝大トランス WEEKS

美術学部絵画棟大石膏室の Art Space1 と Art Space2 において、十月二十九日から十一月十七日まで、「東京藝大トランス WEEKS」が開催された。本展は、現代アートを中心に新しいアートの可能性を提示する東京文化発信プロジェクトとの連携で開催されたもので、本学教員らで組織された選考委員によって選定された本学学生および卒業生の絵画、立体、映像や石膏像と本学教材の動物剥製などを対置させたインスタレーションなどの作品が展示された。

なお本展では、二年にわたる絵画棟耐震改修工事によって、アトスペースが併設された新たな大石膏室のお披露目も兼ねて行われた。





藝大デザインプロジェクト2010  
「藝大デザインプロジェクト2010」成果発表展チラシ

4



東京藝大トランス WEEKS  
大石膏室での展示風景

3



彫刻アートプロジェクト「時空の街ー笑いー」展  
上：春風亭一之輔師匠 下：下谷神社内の会場

5

## 藝大デザインプロジェクト2010

十月十九日から二十一日まで、港区のクレアール青山アートフォーラム第二展示場において、「藝大デザインプロジェクト2010」成果発表展が開催された。平成二十一年度から始まったこの試みは、東京都交通局と連携・協力し、都営交通をテーマに修士課程デザイン専攻の一年生約三十名が、専門領域を横断した五チームに分かれ、地下鉄、バス、路面電車、新交通システムなど交通局の現場をリサーチし、「提案型の問題解決」を行うという実践的なプロジェクトとなっている。成果展では、あつたらしいいなを素直に形にした、学生ならではの柔軟かつ大胆な発想の数々が展示された。

4

## 彫刻アートプロジェクト

### 「時空の街ー笑いー」展

十一月一日から七日まで、台東区の下谷神社にて彫刻アートプロジェクト「時空の街ー笑いー」展が開催された。本展は、浅草の街を中心に四年間にわたり開催されてきたもので、共通するキーワードは「街」と「人」。街に暮らす人間表現のなかに彫刻の本質を求め、本学彫刻科と地域との連携を通して新しい彫刻の探究が行われてきた。今回は会場を寄席発祥の地である下谷神社とし、お題目は「笑い」。七人の若手落語家と二人の落語会を代表する人物を彫刻科学生が取材し、その人となりを捉えた彫刻を制作し展示した。会期中には、展覧会とともに落語会や落語家を招いたギャラリートークも開催された。

5

# 音旬

1

## 藝大オペラ第五十六回定期公演

### 「イル・カンピエツロ」全三幕

奏楽堂において十月九日と十日の二日間、藝大オペラ第五十六回定期公演「イル・カンピエツロ（小広場）」が上演され、満場の観客が藝大オペラに酔いしれた。

藝大オペラの歴史は古く、一九五六年（昭和三十一年）に第一回オペラ公演「椿姫」が上演されて以来、今日まで途絶えることなく公演が行われてきた。本学のオペラ公演は、総合的にオペラ歌手としての研さんを積んだ修士課程の学生および教員が中心的なキャストを務め、藝大フィルハーモニア、学部生の合唱を伴い、衣装、舞台装置に至るまで本格的な舞台づくりの成果を遂げており、各方面から人気の高い公演を行っている。本邦初演の作品も多く、学生にとって大変意義深いものとなっている。

今回の藝大オペラは、二〇一一年十月初旬に「コジ・ファン・トゥッテ」を予定している。

2

## 第四回藝大ミュージックフェスタ

十一月六日と七日の二日間にわたり、千住キャンパスにて、アトリエゾンセンター（ALC）が主催する「第四回藝大ミュージックフェスタ」が開催された。

ALCでは年間を通じ足立区と連携して芸術事業を行っているが、秋のフェスタはそのなかでも規模が大きく、幅広い世代の方にお楽しみいただけるプログラムが展開された。「室内楽コンサートシリーズ」では、打楽器アンサンブルのほか七公演の多様なコンサートを開催。「おとあそび」親子音楽ルーム」には、たくさん子どもたちが訪れ、自由に楽器に触れるなど思い思いに音楽を楽しんだ。邦楽体験ワークショップ「親子で体験！和楽器」では、参加者が箏、尺八、三味線を体験。また、アニメーション専攻の作品を上映する「アニメーションのための小さな映画館」も催され、来場者はそれぞれに芸術体験を楽しんだ。

3

## 千住 Art Path 2010

十二月十八日と十九日、音楽学部音楽環境創造科・大学院音楽研究科音楽文化専攻の学生によるオープンプロジェクト「千住 Art Path 2010」が、取手キャンパスから移転して今年で五年目を迎えた千住キャンパスで開催された。

本プロジェクトは、千住キャンパスを拠点に日々制作や研究に励む学生たちによって毎年二日間に行われる開催されている発表会であり、音楽環境創造科が取手キャンパスに展開していた当時から行われていたもの。音楽制作・アートマネジメント・録音／音響・舞台芸術・文化研究と多岐にわたる専門をもつ学生たちが、アートにおけるジャンルや領域の壁を越えて、それぞれの制作や研究の成果を発表する機会であるとともに、豪華ゲストによるトークやサラウンドの公開録音などのイベントを行った。

4

## 藝大スペシャルアート

### 「障がいを超えて〜みんなで楽しむコンサート」

十月二十四日、音楽学部第一、六ホールを中心に藝大スペシャルアート「障がいを超えて〜みんなで楽しむコンサート」が開催された。

この企画は、障がい者も健常者も分け隔てなく楽しめるアートとは何か、そしてそれを実現するために藝大として何ができるかを考える初めての試み。今回は特に知的障がい者とともに楽しむアートに注目し、美術と音楽の学生たちが自ら企画を考え、教員がサポートするというかたちで準備が進められた。特別支援学校の生徒の作品が展示された「アソビト（遊びと）アートの部屋」や障がい者と健常者の即興演奏が行われ、従来の「音楽」とは異なる新鮮な響きで会場を満たした「みんなで楽しむコンサート」などが催された。





©TAKE-O

藝大オペラ第56回定期公演  
「イル・カンピエッロ」全3幕  
東京藝術大学奏楽堂

1



藝大スペシャルアート  
「障がいを超えて～みんなで楽しむコンサート」  
音楽学部第1,6ホール

4



第4回藝大ミュージックフェスタ  
邦楽体験ワークショップ。千住キャンパス

2



千住 Art Path 2010  
サラウンド公開録音風景。千住キャンパス

3